



九州支部例会（長崎、雲仙 2015年9月26日、27日；17名参加）参加会員の報告

## 1. サーバス九州秋例会に参加して

九州支部会員 福岡県在住

入会して初めての例会。福岡を出発して長崎へ。集合先のJR長崎駅改札口。一回お会いした方が二人。他の方は、名前も知らない人ばかり。支部長の「だれかお腹すいてない？」「パン食べる？」やさしいその第一声に、一気にうちとけました。

市内電車で原爆資料館へ。

悲しい残酷な原爆の資料展示と記憶伝承と思うんだけど。とても涼しくて快適な館内に、きれいな展示。私は表面だけしか理解できなかった。恐怖の元凶のファットマン（プルトニウム爆弾をつめていた4・5トンの爆弾）の模型も太った人と言う名のとおりぷっくりしていて、こわさは、感じにくかった。被爆当時約7万人、5年後には14万人の人々が殺されてしまったのに。

平和公園を通過して、被爆者の方のお話しを伺いに。ご本人が退院の日で来れないとの事。今も苦しんでおられる原爆の被害。風化させてはいけなないと、強く反省いたしました。戦後70年。この平和をずっと続けるために。

つぎは、一番行きたかったコルベ記念館へ。

50年ぶりの2度目の訪問。カトリックの布教の為に印刷されていた聖母の騎士誌の印刷機、机、部屋の一部が保存され、アウシュビッツで男の人の身代わりになって、殺された事実が、展示されていました。昔は気がつかなかったのですが、横に聖母の騎士学園が建っていました。今は亡きコルベ神父の宣教の志が今も息づいていて、とってもうれしくなりました。

ここで、ペルーからのロサさんとフランスのモニクさんとうちとけて楽しくお話！

宿からのお迎えのバスで雲仙へ。

17名のサーバス会員。なんだか旧知の仲みたい。ワイワイとなんだか楽しい。一人一人の自己紹介のあとK（名前の略、以後同じ記法）さんが楽しいバスガイド。

雲仙の宿での夕餉。

もうすっかりみんな知り合い。楽しいおいしい食事と会話。ここで、韓国のJさんが日本3<韓国5<中国6と宴会の声が大きくなる話をされてなんだかおもしろい。そういえば、天神で買い物してる韓国の人も、中国の人も、声がすごく大きくて元気なもの。Mr. IがRさんとの結婚のなれそめを話してくださったり。アルコールも少々入り、私達もワイワイ！ 静かじゃありません。

別室で鹿児島でフリースクールを運営されてるFさんが、楽しそうな生徒の様子や、ご本人のヨーロッパでのサーバス体験をビデオとやさしいお話で楽しく見せてくださいました。すてき！ 私も来年、サーバス体験をしにサーバスに誘ってくれたY子さんと行きたくなりました。鹿児島にも。

夜は白濁したやわらかな温泉につかって、3人部屋で、ゆったり、ぐっすり。

朝は露天風呂に。

出発前ロビーで名刺交換や情報交換！ワイワイガヤガヤ！  
宿のバスで水なし本陣へ。噴火の被災家屋が移築され、展示されていて説明のテーブルがず

っと同じ説明をしています。外の普通の人家を見ていると、とてもきれいで、畑には野菜がすくすく育っています。大噴火から25年もたち復興の並々ならない努力を感じます。それにしても町のすぐうらに普巖岳が大きくそびえ私にはとてもこわく圧迫感さえ感じられました。今でも裏に二筋白く噴煙が上がっていますと教えてくれたこの土地の方に、噴火の後、どこかに引っ越そうと思われましたか？と聞く私に、普巖様のおかげで暮らしています。ここが一番。どこにも行きたくありません。との明快な答え。それにしても、普巖さまなんだ！とびっくりしました。

雲仙岳災害記念館・「がまだすドーム」へ。

今から約200年前の島原大変噴火が劇場形式で見れる部屋と、1990年の火砕流、土石流を度迫力で疑似体験できる平成大噴火シアターを体験しました。自然の驚異と災害の教訓が学べるようになっていました。

帰りは、島原鉄道で諫早へ。

諫早から博多の新幹線の車中は、眠ってばかり。盛り沢山の2日間でした。秋例会を企画し、実行してくださり、車でサポートしたり、いろいろな方の、みごとなボランティアをみせてもらった旅でした。いつも頼りにしているTさん。これからも、よろしく願います。

## 2. 例会1日目の報告

九州支部会員 宮崎県在住

9月26日 長崎原爆資料館前に12時30分集合でした。私は宮崎からの長距離バスでいきますので、その時間には間に合いそうになかったので遅刻届を出していました。長崎駅より1つ前昭和町停留所で下車。すぐタクシーを拾えました。理由を告げたら資料館へ行ってみましょとなり、原爆資料館についたらサーバスのメンバーに入口近くで合流することができました。

修学旅行の引率でたびたび訪れた資料館でしたがすっかり新しくなって、観賞しやすくなっていました。半数の方が外国人で真剣に見学されていました。

「被爆者の声を聴く会」が予定されていたので、被爆者の店へ移動です。爆心地を示すモニュメントの広場を抜け、坂を下って北村西望作の平和記念像の前にでました。その横に被爆者の店がありました。しかし、被爆者がなかなか見えません。

入院されていて、本日退院されたばかりということがわかりました。初めてじかに被爆者の話が聞けると期待していました。健やかな日常に戻れることを祈念いたします。

次の予定地、聖コルベ記念館のある聖母の騎士教会をめざします。坂を下りて電車通りに出て蜚茶屋行に乗り、終点で下車。教会は、山頂にありました。

コルベ神父は教会を創立し、6年後にポーランドにもどられます。そこでナチスにとらわれて、アウシュビッツに送られます。脱走者が出て、銃殺されるところを、コルベは、身代わりを申し出て、独房で餓死を選びました。コルベは聖コルベになりました。

「日本の教会の平和に対する使命」を発信する教会であることも知りました。いいところを紹介していただいで感謝です。

青雲荘のバスが迎えにきてくれました。

バスの中で今回の参加者の自己紹介をしました。サーバス専属ガイドのKさんの案内で島原半島の歴史などを学習しながら、ホテルにつきました。夕食後、鹿児島県のFさんによる学校紹介(特定非営利滑動法人 森の学校楠学園)がありました。フランスからのMさんや、Fさんと同室だったのに、すぐねっむてしまってざんねんでした。